

付添あり、付添なし、付添なし立位の各測定状況における、上腕血圧と中心血圧の比較

Comparison of Brachial Blood Pressure with Central Blood Pressure in Attended, Unattended, and Unattended Standing Situations

水野 裕之

自治医科大学医学部 循環器内科

【目的】 付添なしや付添なし立位における中心血圧(cBP)は不明である。本研究では付添あり、付添なし、付添なし立位において、上腕血圧(bBP)とcBPを比較した。

【方法】 外来で降圧加療中の104例の本態性高血圧患者(平均年齢 66.0 ± 9.8 歳、男性41.3%、平均BMI 25.0 ± 4.5)を登録した。付添ありbBP/cBP、付添なしbBP/cBP、付添なし立位bBP/cBPを同一の自動血圧計(CASPro)で測定し比較した。

【成績】 収縮期血圧は付添ありbBP/cBP $127.3 \pm 15.7/119.2 \pm 15.0$ 、付添なしbBP/cBP $122.7 \pm 15.3/114.4 \pm 15.1$ 、付添なし立位bBP/cBP $123.6 \pm 15.7/114.1 \pm 14.8$ mmHgであり、bBPとcBPの各測定条件ごとの決定係数はそれぞれ0.943、0.941、0.929と高かった(all p value < 0.001)。白衣効果はbBP/cBPで $4.64 \pm 5.79/4.83 \pm 5.67$ mmHgで、両者間に有意差はなかった。付添なし座位血圧と付添なし立位血圧を比較したt検定では、bBPにおいてもcBPにおいても有意差がなかった。しかし起立に伴う血圧変化量はbBPとcBPの比較でわずかながら有意差があった($0.91 \pm 8.00/-0.34 \pm 8.96$ mmHg, $p=0.002$)。

【結論】 付添あり、付添なし、付添なし立位のどの測定状況でも、上腕血圧と中心血圧の間に非常に強い相関が見られた。bBPにおける白衣効果とcBPにおける白衣効果は同等であった。起立による血圧変化量はわずかな差であったが、bBPとcBPの間で有意差を認めた。